MURORAN
INSTITUTE
OF
TECHNOLOGY

室蘭工業大学-学報-

NO.684



室蘭市消防長より本学バスケットボール部へ感謝状の贈呈
（8ページに関連記事あり）

2026年10月号

目　次

◇　トピックス　◇

愛媛大学で開催されたワークショップにて本学職員がMicrosoft 365 Copilot活用とアンバサダー活動について紹介…… 1
旭川市立大学とDX推進に関する情報交換会を開催 …… 2
北海道FDSDフォーラム2026で本学教員・学生が登壇し生成AIを活用した新たな学びを紹介…… 3
令和８年度 室蘭工業大学市民懇談会を開催 …… 5
高校生対象「ロボットアイデア甲子園南北海道大会in室蘭」に水上雅人教授が審査員として参加…… 6
「北海道ジュニアドクター育成塾2.0」の参加者が本学を訪問 …… 7
室蘭市消防長より本学バスケットボール部へ感謝状が贈呈…… 8
庭山教授がアメリカ化学会のフェローに選出…… 9
室蘭市立喜門岱小学校の児童が本学を訪問…… 10
第21回室蘭工業大学「未来塾」を開催…… 11
日本マイクロソフト株式会社主催「共同AIラボ エージェントコレクション2026」で事例発表…… 12
本学デジタル・キャンパス推進室の齊藤室員が日本マイクロソフト株式会社の「Frontier Engineer Appreciation 2026」を受賞 …… 13

◇　外部資金　◇

民間等との共同研究の受入れ…… 14
奨学寄附金の受入れ…… 15
その他の補助金の受入れ…… 16

◇　人　　事　◇

人事異動…… 17

◇　会　　議　◇

学内各種委員会等の開催…… 18

◇　日　　誌　◇

学内行事・学外行事…… 19

◇　人物図鑑　◇

室蘭工業大学人物図鑑 part.57～58 …… 20

トピックス

愛媛大学で開催されたワークショップにて本学職員がMicrosoft 365 Copilot活用とアンバサダー活動について紹介

令和８年７月15日(水)、愛媛大学で開催された「Microsoft 365 Copilotワークショップ」において、本学のデジタル・キャンパス推進室の齊藤室員と泉室員が、生成AI「Microsoft 365 Copilot」の活用事例について発表を行いました。

本学では、令和７年４月から生成AI「Microsoft 365 Copilot」を全学の事務部門に導入しており、導入から１年以上が経過しています。今回の発表では、事務業務におけるMicrosoft 365 Copilotの具体的な活用事例に加え、事務職員の中から「デジタル・キャンパス推進アンバサダー」を設置し、学内での活用促進や普及活動に取り組んでいることについて紹介しました。

また、本学からはデジタル・キャンパス推進アンバサダーである練生川主任も参加し、大学間での生成AI活用や職員による普及活動の在り方について情報交換を行いました。本学のアンバサダー制度や学内での活用推進の取組に対して参加者から高い関心が寄せられ、Microsoft 365 Copilotの活用を推進する職員コミュニティの重要性について活発な意見交換が行われました。

ワークショップは午前と午後の２部構成で実施されました。午前の部では大学事務職員を対象に齊藤室員から生成AIの活用事例が共有され、参加者との活発な意見交換が行われました。

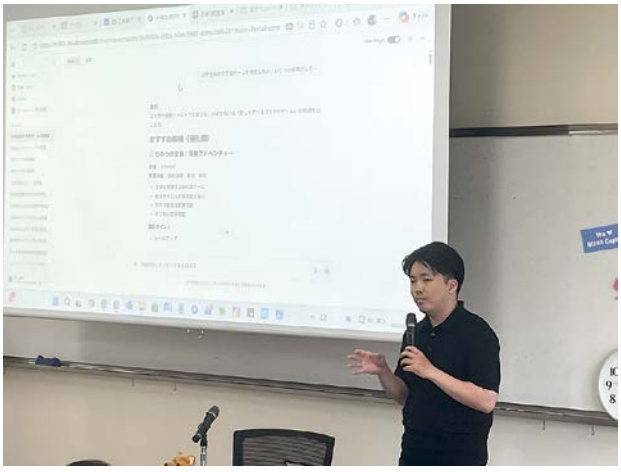
午後の部では愛媛大学教育学部附属小学校の教員を対象にワークショップが開催され、本学齊藤室員から事例発表を行い、泉室員からは生成AIを活用した学習ゲームの事例を紹介しました。教育現場における生成AIの活用可能性に関する発表は参加者から高い関心を集め、多くの質問や意見が寄せられました。

本ワークショップを通じて、Microsoft 365 Copilotの活用は各大学で進められている一方、その活用定着や組織的な普及を支える人材育成やコミュニティ形成の重要性についても認識を共有する機会となりました。

本学では今後も生成AIをはじめとするデジタル技術の活用を推進し、業務改善や教育・研究活動の充実に取り組んでまいります。



齊藤室員による事例発表の様子



泉室員による事例発表の様子

旭川市立大学とDX推進に関する情報交換会を開催

令和８年７月31日(金)、旭川市立大学の職員が本学のDX推進事例の視察のため来学し、本部棟３階経営企画課において情報交換会を開催しました。

旭川市立大学では大学DXの推進に取り組んでおり、本学におけるDX推進体制や業務改善の取り組みについて情報収集を行うため来学されました。

当日は、本学のDX推進体制や業務改善等の取組、学生アンバサダーの活動、生成AIの活用事例について紹介するとともに、DX推進における課題や今後の展望について情報交換を行いました。

参加者からは活発な質問が寄せられ、大学DXの推進に向けた有意義な情報交換の場となりました。今後も他大学との情報交換を継続し、大学間での知見共有を通じてDX推進に取り組んでいきます。



情報交換会の様子

北海道FDSDフォーラム2026で本学教員・学生が登壇し生成AIを活用した新たな学びを紹介

令和８年８月20日(木)、北海道大学総合教育棟にて「北海道FDSDフォーラム2026」が開催されました。本フォーラムは、北海道FD・SD協議会および北海道大学教育イノベーション機構教育学修支援センターの主催により、全国の高等教育機関の教職員が一堂に会し、教育・業務に関する課題について議論や情報交換を行う貴重な学びの場として、毎年開催されています。

今年度は分科会、ポスター発表、シンポジウムを中心とした対面形式で実施され、シンポジウムのみウェビナーによる同時配信も行われました。シンポジウムでは「生成AIに問われる大学の意義」をテーマに、生成AIが学びを支援する存在として広がる中で、大学教育の構造や、教室に集まって共に学ぶことの意義について、教職員・学生・企業それぞれの視点から議論が行われました。

本学からは、分科会Ⅰ「A. 進展するAI利用の実践」において、しくみ解明系領域 化学生物システムコースの馬渡康輝准教授と、理工学部システム理化学科化学生物システムコース２年の松島潤音さんが、「つまずきをそのままにしない学びへ －エージェントが支える新たな学習支援モデル－」をテーマに話題提供を行いました。この新たな学習支援モデルは、授業中や授業後に学生が疑問をその場で質問し、理解を深めながら学び続けられるよう、授業支援や演習支援など用途別に設計した生成AIエージェントを活用するものです。

松島さんは、本学のデジタル・キャンパス推進を学生の立場から支援するスチューデントアンバサダー「M-COINS（エム・コインズ）」のメンバーとしても活動しており、自ら開発を進めている分子構造命名に特化したAIエージェントと、その開発過程で得られた学習効果を題材に、学生の視点から生成AIを活用した新たな学びの可能性を紹介しました。発表後には、会場から多くの質問が寄せられ、参加者との間で活発な議論が行われました。

また、シンポジウムでは、松島さんが学生の立場からパネリストとして登壇しました。本学で取り組むAIエージェント開発の経験を踏まえながら、生成AI時代における学びや大学教育への期待について発言し、教職員や企業関係者と活発な意見交換を行いました。

こうした発表や議論を通じて、M-COINSによる生成AI活用やデジタル・キャンパス推進活動の成果を全道の大学関係者へ発信する貴重な機会ともなりました。今後も本学では、教職員と学生が協働しながら、デジタル・キャンパス化に向けた取り組みを積極的に推進してまいります。



発表する馬渡准教授


発表する松島さん



シンポジウムの様子

令和８年度 室蘭工業大学市民懇談会を開催

令和８年８月25日(火)に本部棟大会議室において、室蘭工業大学市民懇談会を開催しました。

この懇談会は、大学が地域とともに発展するため、広く地域の方々と意見を交換することを目的として設置したもので、公募による一般市民を含む、室蘭近隣の自治体、教育界等からの委員11名及び本学の委員９名が出席しました。

懇談会に先立ち、しくみ解明系領域 李 鶴准教授から「AIで野生動物を見守る ― 地域課題の解決に向けた新しい情報通信技術 ―」と題して、AIによるエゾシカ等の野生動物検出技術や、地域課題の解決に向けた情報通信技術の活用について研究紹介が行われました。引き続き、本学環境創生工学系専攻修士１年千葉拓慈さんから「不動産価値向上のカギとしての地域力：空き家活用に関連して」と題して、地域の歴史や魅力を可視化し、空き家活用につなげる取組について活動の紹介が行われました。

その後、今回のテーマである「地域における大学の役割」について各委員からは、野生動物対策や空き家活用に関する研究への期待に関する意見、大学の研究成果や学生の活動に関する情報発信の充実に関する要望など、活発な意見交換が行われました。



開会の挨拶をする松田学長



講演する李准教授



学生の活動紹介



懇談会の様子（学外委員）

高校生対象
「ロボットアイデア甲子園南北海道大会in室蘭」に
水上雅人教授が審査員として参加

令和８年12月に東京で開催される「ロボットアイデア甲子園」全国大会の予選として、令和８年８月29日（土）に「ロボットアイデア甲子園南北海道大会in室蘭」がFKホールディングス生涯学習センター「きらん」にて開催されました。

室蘭市内の高校生を中心に書類審査を通過した高校生８名が、各自アイデアについて、５分間プレゼンテーションを行いました。

地域貢献の一環として昨年に引き続き、水上雅人教授が審査員として参加しました。「ロボットアイデア甲子園」は日本ロボットシステムインテグレータ（SIer）協会主催で協会参加の企業が運営を行うイベントであり、高校生らが産業用ロボットの使い方のアイデアを競う大会です。北海道地区での開催は一昨年から室蘭地区で開催され、今年度は４回目ですが、年々アイデアやプレゼンテーションのレベルがアップしています。今年度は「らっこ型育児ロボット」が最優秀賞を獲得するなど、高校生発の新鮮なアイデアが様々提案されるイベントとなっています。



集合写真

「北海道ジュニアドクター育成塾2.0」の参加者が本学を訪問

令和８年８月３日(月)に、旭川工業高等専門学校がJST（科学技術振興機構）の委託を受けて実施している「北海道ジュニアドクター育成塾2.0」に参加している小学５年生から中学３年生までの33名と引率12名が「施設見学」の一環で本学を訪れました。

一行は、本学しくみ解明系領域の亀川厚則教授、馬渡康輝准教授から研究についての説明を受け、Burapornpong Siree助教や本学学生の説明の下、実験室の見学を行いました。

一行は、初めて見る実験器具や自分の背丈ほどもある大きな実験装置に興味津々でした。



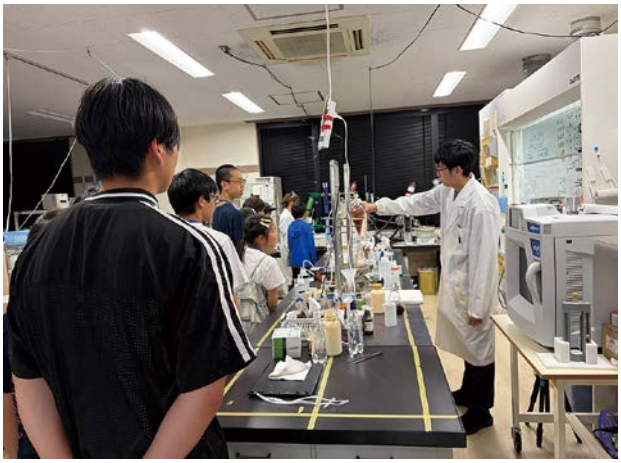
亀川教授の説明



Burapornpong助教と実験装置に触ってみる



馬渡准教授の説明



実験室見学

室蘭市消防長より本学バスケットボール部へ感謝状の贈呈

令和８年９月２日(水)、本学本部棟において、室蘭市消防長より本学のバスケットボール部へ感謝状が贈呈されました。

この表彰は、令和８年５月25日の課外活動中に発生した救急事案において、本学バスケットボール部員が迅速かつ適切な救命活動を行ったことに対するものです。

贈呈式には、バスケットボール部を代表して、部長の古茂田瑛さん（創造工学科３年)、コーチの河治亮太さん（創造工学科３年)、中村誉さん（創造工学科２年)、篠原漣さん（創造工学科１年）が出席し、部長の古茂田さんが室蘭市消防長から感謝状を受け取りました。

消防長からは、「急な出来事で大変驚かれたことと思いますが、皆さんの迅速かつ的確な対応が人命救助につながりました。チーム一丸となって仲間を守ろうとする結束力と組織的な行動力は、多くの市民の模範となるものであり、その功績は誠に顕著であります。」との言葉が贈られました。

部長の古茂田さんは当時を振り返り、「学外での活動でしたが、AEDが分かりやすい場所に設置されており、部員一人ひとりが自主的に行動したことが救助につながった。」と話していました。

また、中村さんは「昨年、自動車学校で受講した救命講習の知識を生かすことができた。」と話していました。

今回の事案では、部員らによる迅速かつ適切な対応が行われ、尊い命を守ることにつながりました。

本学では、今回の事案を受け、課外活動における安全意識の向上と事故防止を目的として、「サークル安全対策チェック」を作成し、全サークルに実施を促しています。

今後も、学生・教職員が互いに支え合いながら、安全で安心な環境づくりに努めてまいります。



表彰式



代表して表彰状を受け取る古茂田部長


懇談会の様子


記念撮影

庭山教授がアメリカ化学会のフェローに選出

令和８年８月24日（月）、しくみ解明系の庭山聡美教授が、アメリカ化学会（American Chemical Society：ACS）のフェローに選出され、シカゴで行われた授賞式に出席しました。

ACSは1876年に設立された世界最大級の化学分野の学術団体であり、化学および関連分野の研究・教育の発展を目的として、世界中の研究者、技術者、教育者などが所属しています。学術誌の発行や国際会議の開催、研究成果の発信などを通じて、化学の発展に大きく貢献しています。

庭山教授は、水を主溶媒とする対称化合物の非対称化反応とその応用研究に加え、ACS Councilorをはじめとする主要な役職において、世界各国の研究者をつなぐ国際的なリーダーシップを発揮してきたことが高く評価され、今回の受賞となりました。

科学分野の学術団体として世界最大規模を誇るACSでは、今年度、世界各国から59名のフェローが選出されましたが、日本国内から選出されたのは庭山教授のみでした。これは、庭山教授の卓越した研究業績と国際的な学術活動が世界的に高く評価されたことを示すものです。

https://cen.acs.org/acs-news/acs-names-2026-fellows/104/web/2026/07

【受賞コメント】

この度は、科学系学術団体では世界最大の学会とされているアメリカ化学会のフェローに日本国内から、また日本人として唯一選出されるという、思いがけぬ名誉を賜り、大変光栄に存じます。しかも今年はアメリカ化学会が150周年を迎えるという節目の大切な年にこのような名誉を賜りまして、今後も一層の努力をするべく身が引き締まる思いです。学生や共同研究者、また自分に活動する場を与えていただいた室蘭工大に感謝します。



Dorothy J. Phillipsアメリカ化学会前会長と
記念撮影する庭山教授（右）

室蘭市立喜門岱小学校の児童が本学を訪問

令和８年９月３日(木)に、室蘭市立喜門岱小学校の１年生から６年生までの５名と引率２名が「令和８年度室蘭ふるさと学習」の一環で本学を訪れました。

一行は、本学ものづくり基盤センターにおいて、ものづくり技術についての説明を受けた後、教員やセンターのスタッフの指導のもと、鋳造技術を用いたキーホルダーを作成しました。

また、児童から事前にいただいた質問に回答する時間もあり、室蘭市や室蘭工業大学が誇るものづくりについて、短い時間でしたが、一生懸命勉強されていました。



楠本准教授の説明を聞く様子

第21回室蘭工業大学「未来塾」を開催

令和８年９月４日(金)に、第21回室蘭工業大学「未来塾」を本部棟３階大会議室で開催しました。

今回は、名古屋工業大学 産学官金連携機構長 教授 矢野卓真氏を講師に招き、『「大学は卒業するもの」から「何度も戻る場所」へ ― リカレント教育から始まる名工大の産学共創 ―』と題して講演があり、役員をはじめ、大学運営に携わる教職員約35名が参加しました。

講演では、名古屋工業大学における産学連携事例のご紹介や、リカレント教育と産学共創の繋がり等について講演が行われ、参加者は講師の説明に熱心に耳を傾けていました。質疑応答においても参加者と講師の間で活発な意見交換が行われ、未来塾は大変有意義な時間となりました。



講演する矢野氏


セミナーの様子

日本マイクロソフト株式会社主催「共同AIラボ エージェントコレクション2026」で事例発表

令和８年７月３日(金)に、日本マイクロソフト株式会社品川本社およびオンラインで開催された「共同AIラボ エージェントコレクション2026」に本学デジタル・キャンパス推進室の三林室員が参加しました。

本イベントは、日本マイクロソフト株式会社が主催する教育機関向けの取り組みで、大学や高等教育機関の関係者が生成AIやAIエージェントの活用事例を共有し、業務改善や教育研究支援に向けた新たなアイデアを議論することを目的として開催されました。

当日は、各教育機関が開発・運用しているAIエージェントの事例紹介や意見交換が行われ、AIを活用した業務効率化や情報提供の高度化に関する知見が共有されました。三林室員は、本学におけるデジタル化推進の取り組みやAI活用の可能性について他機関と情報交換を行い、今後のデジタル・キャンパス推進に向けた有益な知見を得ました。本学では、今後も生成AIをはじめとするデジタル技術の活用を推進し、教育・研究・大学運営の質向上に取り組んでまいります。





対面参加者の集合写真（左：三林室員）

本学デジタル・キャンパス推進室の齊藤室員が日本マイクロソフト株式会社の「Frontier Engineer Appreciation 2026」を受賞

本学デジタル・キャンパス推進室の齊藤雅利室員（経営企画課副課長）が、日本マイクロソフト株式会社が主催する「Frontier Engineer Appreciation 2026」を受賞しました。

本賞は、Microsoftテクノロジーの普及・利活用を通じて、組織におけるFrontier Transformationの推進を牽引し、AI、クラウド、セキュリティの活用による価値創出を実現しているエンジニアを顕彰するものです。

齊藤室員は、本学におけるMicrosoft 365 Copilotの利活用促進をはじめ、生成AIを活用した業務変革やDX推進活動に継続的に取り組んできました。こうした2025年度の活動実績が高く評価され、このたびの受賞につながりました。

本学では、デジタル技術を活用した教育・研究・大学運営の高度化に取り組んでおり、今回の受賞は、その取り組みの一端が評価されたものと受け止めています。今後も、学生や教職員の利便性向上と新たな価値創出に向けて、DXの推進に取り組んでまいります。

【受賞者一覧はこちら】

≪齊藤室員の受賞コメント≫

このたびは、このような栄誉ある賞をいただき、大変光栄に思います。

本学のDX推進は決して一人でできるものではなく、日本マイクロソフト株式会社やEngage Squared株式会社の皆さまからの継続的なご支援、そして学内で同じ方向を向いて挑戦してくれる仲間たちの存在があってこそ成り立っています。

今回の受賞は、私個人の取り組みではなく、多くの皆さまとともに進めてきた活動への評価であると受け止めています。

これからも「まずやってみる」の姿勢を大切にしながら、新たな価値創出や人材育成につながる取り組みに挑戦し、その成果を本学の教育・研究・大学運営の発展へ還元してまいります。





外部資金

民間等との共同研究の受入れ

研究代表者・職・氏名	相手方区分	金　額 （千円）
しくみ解明系領域 教　授　　徳　樂　清　孝	大　　企　　業	1,650
合　　計（1件）		1,650

※大企業・中小企業の別は、中小企業基本法（昭和38年法律第154号）第２条による。

奨学寄附金の受入れ

寄 附 者	目 的	金 額 (千円)
千代田工営株式会社	工 学 研 究 助 成	300
個人寄附者（1件）	工 学 研 究 助 成	200
株式会社日本デジタル研究所	工 学 教 育 助 成	150
一般財団法人日本建設情報総合センター	工 学 研 究 助 成	2,970
合　　計（4件）		3,620

その他の補助金の受入れ

事　業　名	研究代表者・職・氏名	事業元	金　額 （千円）
半導体/GX関連技術シーズ育成事業（GX関連技術シーズ育成補助金）	もの創造系領域 教　授　　谷　口　　円	公益財団法人 北海道科学技術総合振興センター	2,971
合　　計（1件）			2,971

人　事

人 事 異 動

国立大学法人
室蘭工業大学長発令

発令年月日	異 動 内 容	氏　名	現　職
	〈採　用〉		
令和８年10月１日	大学院工学研究科特任准教授（ひと文化系領域） 兼務：MONOづくりみらい共創機構	松　本　真　実	北海道大学　産学・地域協働推進機構　スタートアップ創出本部 スタートアップ支援部門 スタートアップ創出マネージャー
	大学院工学研究科特任講師（ひと文化系領域）	ACHY GUILLAUME	室蘭市外国語指導助手
	〈雇用期間満了〉		
令和８年９月30日		平　澤　　龍	大学院工学研究科　博士研究員
	〈採　用〉		
令和８年10月１日	大学院工学研究科　博士研究員	YUAN XINGYU	大学院工学研究科　博士研究員
	大学院工学研究科　博士研究員	WANG ZHONGLI	大学院工学研究科　博士研究員
	大学院工学研究科　博士研究員	SARTIKA	大学院工学研究科　博士研究員
	大学院工学研究科　博士研究員	FATHIN NURZAMAN TAUFIK	大学院工学研究科　博士研究員
	大学院工学研究科　学術研究員	上　野　香　織	大学院工学研究科　学術研究員
	〈雇用期間更新〉		
令和８年10月１日		POLTAK SANDRO RUMAHORBO	大学院工学研究科　学術研究員

学内会議

学内各種委員会等の開催

＜8月25日～9月24日＞

開催日時　令和8年9月1日(火)
会 議 名　第8回企画戦略会議

開催日時　令和8年9月8日(火)
会 議 名　第12回役員会

開催日時　令和8年9月10日(木)
会 議 名　第4回大学院工学研究科博士後期課程専攻長会議

開催日時　令和8年9月10日(木)
会 議 名　第3回教授会

開催日時　令和8年9月15日(火)
会 議 名　第9回企画戦略会議

開催日時　令和8年9月16日(水)
会 議 名　第13回役員会

開催日時　令和8年9月16日(水)
会 議 名　第3回経営協議会

開催日時　令和8年9月17日(木)
会 議 名　第5回教育研究評議会

開催日時　令和8年9月17日(木)
会 議 名　第14回役員会

日　誌

学内行事

8月25日(火)　令和８年度室蘭工業大学市民懇談会
9月４日(金)　第21回室蘭工業大学「未来塾」
9月11日(金)　合格発表【2026年10月入学大学院博士前期課程一般入試・外国人留学生入試（国内出願）・2027年４月入学大学院博士前期課程一般入試・外国人留学生入試（国内出願)･外国人留学生入試（国外出願)】
9月19日(土)　第65回工大祭（20日まで）
9月24日(木)　９月期学位記授与式

学外行事

8月27日(木)　令和８年度国立大学法人トップセミナー（28日まで：横浜市）
9月７日(月)　令和８年度IDE大学協会北海道支部セミナー（オンライン）
9月16日(水)　令和８年度第２回公立はこだて未来大学経営審議会（オンライン）
9月18日(金)　2026年度（第32回）道内国公私立大学学長懇談会（札幌市）

室蘭工業大学 人物図鑑

室蘭工業大学に所属する教員・職員に
専門分野、業務内容、室工大の
Good Pointなどを聞いてみました。

①専門・業務内容
②室工大のGood Point
③室工大で好きなspot



Part 57 谷口　円



①教授、建築材料・施工

②教員と学生の距離が近く、一緒にいろいろなことができるところ。

③大学会館前の通りの八重桜並木。

Part 58 大石義彦



①教授、流体工学・船舶海洋工学・造船・水素アクチュエータ・機械学習を含む画像処理技術

②学生と教員の距離が程よいこと。挨拶をできる学生さんがいること。教員間の異文化交流が活発なところ。気軽に国際交流・共同研究があること。

③流体工学研究室の実験室（見学歓迎）

編集後記

◆「ソラミチ」が本学の新しい象徴として親しまれているように、もう一つ、室工大の象徴的な場所をつくりたい。そんな構想が、正門を入って少し進んだ場所で動き始めています。

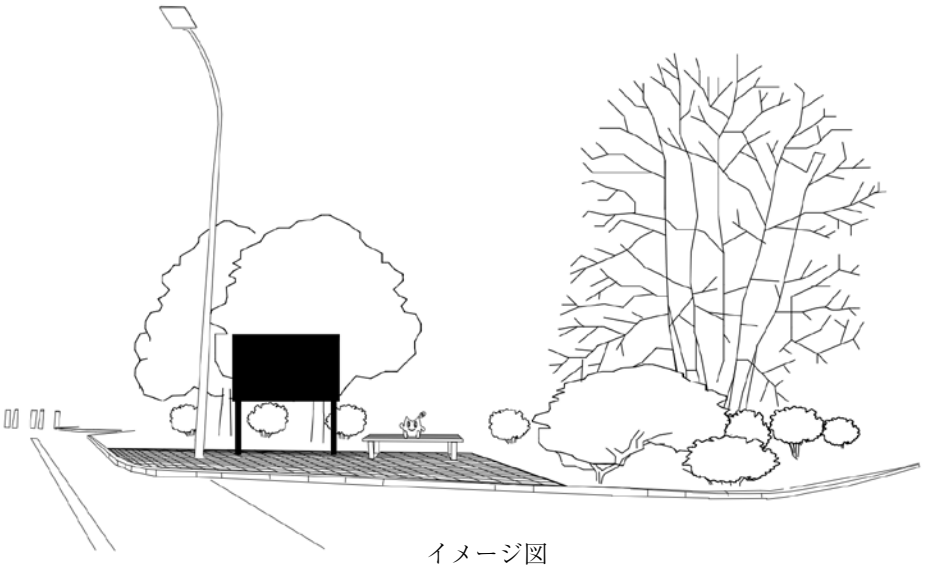
まだ少し先の話ですが、ここで新しい象徴となりたい広場（ヒロバ）構想を少しだけ。

それは、その場所に屋外デジタルサイネージを設置し、そのそばにムロぴょんのベンチを設置するものです。学生や教職員はもちろん、大学を訪れる皆さんにも親しまれ、人が集い、情報が行き交い、新しい交流が生まれる。そんな広場へと育てていきたいと考えています。そして、この広場の名称は、皆さまにも参加いただきたく、公募をする予定です。

いつの日か、札幌の「ヒロシ（HILOSHI）」のように、「○○で待ち合わせ！」と、その名前だけで場所が通じる。そんな、誰もが知る室工大の待ち合わせスポットになればと思っています。

「ソラミチ」に続く、新たな室工大のシンボルになって欲しいとの想いを込めて。

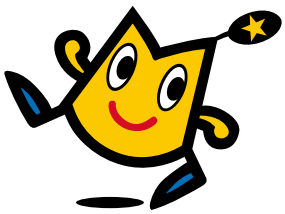
さて、どんな名称となるのか？ムロ?!タロウイチ← 室蘭工業専門学校初代学長の氏名、道ではないけどソラミチ、リクミチに続く、ミチシリーズ、果たしてどうなるか。そして、そこにどんな新しい水元の風景が生まれていくのでしょうか?!



イメージ図

（Garoon：総務広報課秘書広報係、E-mail：koho@muroran-it.ac.jp）

（総務広報課秘書広報係）



室蘭工業大学のキャラクター「ムロぴょん」

■編集発行　室蘭工業大学総務広報課
〒050-8585　室蘭市水元町27番１号　電話　0143-46-5008

■印 刷 所　株式会社日光印刷
電話　0143-47-8308